



令和6年5月31日 横浜市立緑小学校

緑小だより 6月号

ふれあい 学びあい みとめあう みどりっ子

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/midori>



まちを愛する

校長 寺澤 みゆき

6月2日は、横浜港が開港したことを記念した「開港記念日」。この日、横浜市立学校は、「横浜市立学校の管理運営に関する規則」第4条の規定により、休業日となっています。（今年は6月2日が日曜日なので、休業日にはなりません。また、国民の祝日ではないため、振替休日もないのです）

先日の朝会では、6年児童による開港記念に関する話と、横浜港が開港した頃のことを学ぶクイズが校内放送で流され、全校で市歌を歌いました。今月の学校だよりでは、朝会で取り上げた「横浜市歌」について、保護者や地域の皆様にもお伝えしたいと思います。

「♪わが日の本は～」と歌いかけると、「♪島国よ～」と、「ハマっ子」は思わず続けて歌ってしまうとテレビ番組で取り上げられるくらい、なじみ深い横浜市歌。この逸話には、横浜市立学校御出身の方は大きく頷かれることと思います。緑小学校でも、5月はいたるところから市歌を歌う元気な声が響いていました。緑小学校に限らず、横浜市内の小学校では当たり前のように音楽の授業で市歌を学びます。そして、コロナ禍以前は、当たり前のように式典等で歌っていました。このように学校で教材として歌っていくため、しっかりと定着するのです。

横浜市歌は明治42年、横浜の開港50周年を記念して作られたものです。作詞は世界的にも有名な小説家、森 林太郎（鷗外）氏、作曲は当時東京音楽学校（現在の東京藝術大学）助教授だった、南能衛（よしえ）氏です。1859年に開港し、今年は横浜開港165年目であることから、横浜市歌は115年にわたり歌い継がれていることとなります。皆が歌えることだけでなく、このように長く市民に親しまれてきたということも、他に例がないようです。

さて、教育課程に目を向けますと、道徳科に、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」という内容項目があります。5、6年で養うものは「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと」と、具体的に示されています。

今年度の緑小は、まちを大切に、まちを愛する心を育てることを柱のひとつにしています。この横浜市歌の取組と同様に、様々な教育活動を通して、毎日過ごしている緑小学校、地域への親しみや愛着をもてるよう指導していきます。

今月も、本校の教育活動へのご理解、ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

<p>横 浜 市 歌</p> <p>森 林太郎（鷗外）作詞 南 能 衛 作曲</p> <p><small>（原歌を当用漢字・新かなづかいに改めた）</small></p>	<p>わが日の本は島国よ 朝日かがよう海に 連りそばだつ島々なれば あらゆる国より舟こそ通え</p>	<p>されば港の数多かれど この横浜にまさるあらめや むかし思えば とも屋の煙 ちらりほらりと立てりしところ</p>	<p>今はも舟も千舟 泊るところぞ見よや 果なく栄えて行くらんみ代を 飾る宝も入りくる港</p>
---	--	--	--